

氏名	中山 緑 子		
学 位 の 種 類	医 学 博 士		
学 位 授 与 番 号	乙 第 1823 号		
学 位 授 与 の 日 付	昭和62年 9 月30日		
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）		
学 位 論 文 題 目	運動性回旋融像の研究		
	第 1 報 正常者について		
	第 2 報 上斜筋麻痺について		
	第 3 報 上斜筋麻痺における上斜筋縫縮術の効果		
論 文 審 査 委 員	教授 小倉義郎	教授 堀 泰雄	教授 中山 沃

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

著者は運動性回旋融像（mcf）を解明する目的で、正常者、上斜筋麻痺およびその患眼上斜筋縫縮術後のmcfを頭位との関連において定性的および定量的に分析した。mcfは改良型Aulhorn位相差ハプロスコープと写真法を用いて、5種類の頭位で他覚的に測定した。その結果、正常者では正中位でexyclo方向およびincyclo方向にそれぞれ2°のmcfが証明され、回旋融像時の眼球運動にはcyclovergence、非固視眼および固視眼のcyclo-duction、cycloverversionの4種類の型が認められた。mcfの大きさを頭位別にみると、正常者では上斜筋の内回旋作用が強く発揮される顎上げ頭位で、incyclo方向のmcfは正中位のmcfに比べ有意に大きかった。上斜筋麻痺ではcyclo-ductionの眼球運動は認められず、顎上げ頭位のexyclo方向ならびにincyclo方向および患側に頭部傾斜のexyclo方向のmcfは正常者のmcfに比べ有意に小さかった。上斜筋縫縮術後には再び4種類の眼球運動が出現し、顎上げ頭位のincyclo方向および患側に頭部傾斜のexyclo方向のmcfは正常者のmcfに比べ有意差を認めなかった。これは縫縮術による上斜筋の内回旋作用増強が奏効したと考えた。これらのことより、mcfは頭位の影響を受け、上斜筋麻痺に対する上斜筋縫縮術はmcfの改善に効果があると判明した。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は眼科領域における運動性回旋融像について、実験的ならびに臨床的に研究したものであるが、従来十分確立されていなかった回旋融像時眼球運動の定性的・定量的計測法について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。